

報道解禁 2024年3月22日 23:10(日本時間)

水文学者の沖大幹教授が 2024年ストックホルム水大賞を受賞

仮想水貿易、デジタル河川網の構築、水循環研究への人間活動の影響についての世界的に著名な研究により、沖大幹教授が2024年ストックホルム水大賞を受賞しました。

3月22日、ストックホルム水大賞の受賞者は沖大幹教授と公表されました。

沖教授は世界的に著名な水文学の研究者です。より現実的で実践的な気候変動適応策、人間活動の影響を考慮した水循環研究、世界の河川流量のより正確な描写を通して、沖教授の研究は地球規模での持続可能な水管理の推進に貢献してきました。具体的に、沖教授は現在世界中で使用されている気候変動への応用や地球規模の水資源評価のための地球規模の河川流下モデル（Total Runoff Integrating Pathways - TRIP システム）の開発に尽力しました。また、彼は仮想水の価値を正確に測定した最初の人物でもあります。彼の研究は、食料輸入とそれが仮想水取引や水不足に与える影響についての理解の深化につながりました。

ストックホルム水賞推薦委員会は、その引用文の中で次のように述べています：

「沖大幹教授の研究は、水文学、気候変動、持続可能性の結びつきに関する我々の理解を大きく前進させました。複雑系の数値モデリングを通じて、人間が水、気候、生物圏をどのように変化させるかについて重要な洞察を提供する卓越した学識を示しました。彼の主な科学的貢献は、水管理と気候変動における重要な変数としての『総貯水量』に光を当てた点にあります。沖教授は、グローバルな水収支、仮想水の世界的な流れ、再生可能な年水資源量の時空間変動の研究に対する卓越した貢献により今回の受賞者に選ばれました」。

2024年のストックホルム水大賞受賞者となるにあたり、沖教授は次のように語っています：

「この賞を受賞できて本当に感動していますし、幸運だと感じています。まさか自分がこの賞を受賞できるとは思ってもみませんでした。受賞後は、後進の育成に力を注ぎ、水文学の国際的な学術に貢献し続けたいと考えています。また、これまでの受賞者のように、研究を通じて世界の水問題の解決にさらに貢献しなければならないと感じています。」

沖大幹氏は東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻の教授です。東京大学総長特別参与を兼務しており、これまで国連大学上級副学長、国連事務次長補などを歴任しました。沖氏は同じく科学者である妻とともに米国メリーランド州のNASAゴダード宇宙飛行センターに客員研究員として1995年から2年間滞在しました。夫妻には2人の子供がいます。

沖教授によると、ストックホルム水大賞の受賞者の中でも、仮想水の概念に関する重要な研究で知られるアントニー・アラン教授から多くの示唆を受けられたそうです。さらに、ストックホルム国際水研究所の故マリン・ファルケンマルク上級顧問の名前も、沖教授に大きな示唆を与えた人物として挙げられています。

ストックホルム水大賞は、スウェーデン王立科学アカデミーの協力のもと、ストックホルム水財団によって授与されます。ストックホルムで開催される世界水週間の8月28日に、同賞の公式後援者であるスウェーデン国王カール16世グスタフ殿下より、受賞者の沖教授に賞が授与されます。ストックホルム水賞の創設パートナーは、オーランズバンケン、バカルディ、PDJ財団、WEF、ザイレムです。

メディアからのお問い合わせ先：

Jakob Schabus, jakob@schabus@siwi.org, +46 720 50 60 39